

全ての子供に、自分の考えを説明する力をつける！

速報

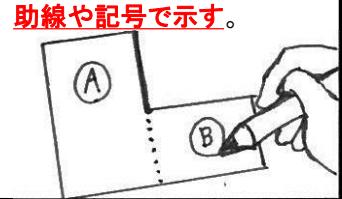
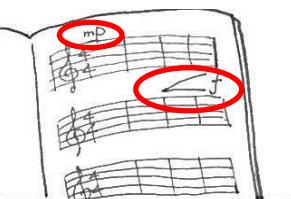
どの教科においても、「〇〇について自分の考えを説明しよう」という学習活動を設定することがあります。一見活動的に見えて、実は説明が得意な一部の子供が活躍し、その他の子供はその説明を聞いてなんとなく分かったような気になる…といったことはないでしょうか。本号では、全ての子供が必要感、相手意識、目的意識を持ち、自分の力で最後まで説明できるようにするためのポイントについて掲載します。

ポイント① 子供が必要感、相手意識、目的意識を持って説明ができるような課題を設定する。

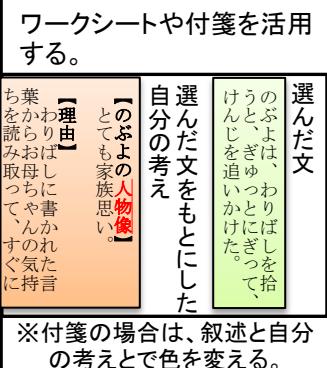
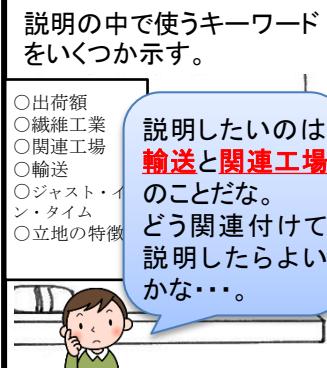
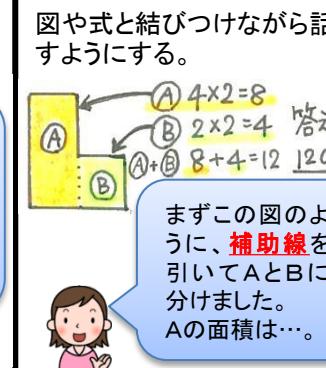
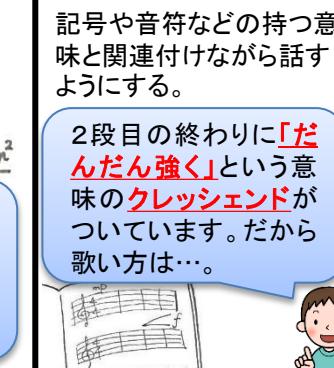
子供が説明したいと思える内容か	だれに説明するか	何のために説明するか
私の考えをぜひ聞いてほしいな！	例) 自分だけが知っている〇〇のいいところ	例) 隣の席の人には違うグループの人に学級全体に

ポイント② 全員が自分の考えを持つことができているかどうかを確認する。

下の表のように、あらかじめ思考の過程を可視化できるような指示をしておくと、机間指導に役立ちます。		まずは子供たちが何をどのように説明しようとしているのかを教師が把握することが大切ですね。	
--	---	--	---

【国語】 中心人物の人物像を、叙述を基にして説明しよう。	【社会】 中京工業地帯が発展した理由について説明しよう。	【算数】 L字型の面積の求め方を説明しよう。	【音楽】 歌い方の工夫について説明しよう。
自分の考えの根拠となる文や言葉に線を引く。 	自分の考えの根拠として用いる資料を明らかにしたり、番号や印をつけたりする。 	どの面積を、どの順番で求めようとしているのかを補助線や記号で示す。 	工夫する際に着目する音符や記号、歌詞に印をつける。 

ポイント③ 一人一人の思考を言語化するための支援をする。

子供が何をどのように説明できたらよいのか、教師が評価規準を明確にしておくことが大切です。		また、説明をするのに必要な「教科の用語」について子供が情報を持っているかどうかを確認しましょう。	
ワークシートや付箋を活用する。  ※付箋の場合は、叙述と自分の考えとで色を変える。	説明の中で使うキーワードをいくつか示す。  説明したいのは、輸送と関連工場のことだな。どう関連付けて説明したらよいかな…。	図や式と結びつけながら話すようとする。  まずこの図のように、補助線を引いてAとBに分けました。Aの面積は…。	記号や音符などの持つ意味と関連付けながら話すようとする。 

ポイント④ ペアやグループでの対話を取り入れ、一人で説明する場を設定する。

途中までは説明できるから、続きをどう説明したらいいかと一緒に考えてほしいな。	【説明をよりよくするために】 目的を持って聞き合うことが大切！ ↓ 必要に応じて付け加えをしたり、修正をしたり、評価をし合ったりする	【ゴール】 全ての子供が自分の力で説明できるようになる。
いいよ。私の説明も聞いて、意味が正しく伝わるかどうかを評価してほしいな。		